知っておきたい初盆のしきたり

＊しきたりは地域により其々違いますので、
あくまでもご参考となされてください。

はじめて迎えるお盆には手厚い飾りやお供え

仏式では、初七日、三十五日、四十九日、百か日の法要が行われますが、故人の忌明け後の初めてのお盆は、悲しみが新たなだけに普段のお盆よりお飾りやお供えを盛大に、手厚く供養します。「初盆」または「新盆(にいぼん)」といい、親族、知人、友人などを招き、僧侶による読経、遺族および参列者による焼香のあと、精進料理でおもてなしをします。
ただし忌明日(四十九日)前にお盆を迎えられたり、忌明日から間もない場合には、翌年が初盆となる場合もあります。

初盆の準備と過ごし方(さまざまな行事があります)

◆盆月の朔日(ついたち)
灯籠を飾り始めます。この日に黄泉の国の扉が開いて、精霊が冥土からそれぞれの家に旅立つといわれます。

◆7日　七夕
陰暦の日取りをそのまま受け継ぎ、お盆は七夕の日が盆の始まりとされています。

◆準備
お供え物の準備をします。お見舞い者への返礼品の準備などもしておきます。

◆13日　お盆の入り(迎え盆)
午前中に家族揃ってお墓参りへ。夕方には迎え火門提灯を灯します。初盆の場合は、精霊に自分の家を教えるため特にあかあかと灯します。

◆14日～15日(盆中日)
お盆中は、灯明を絶やさず、盆棚を前に、わが家へ戻ってきた精霊と一緒に家族や故人と近しい人たちが集います。

初盆のしきたり